

整備のモデル地区である岡山駅東口・西口地区の地域住民の意見も聴き、自転車と歩行者が安全快適に通行できるような自転車道や自転車通行帯の整備を、平成21年度末を目途に進めたい。

緑化フェア会場を

市民参画で維持する公園へ

問 緑化フェア後の会場は、市民参画で維持する公園にすべきでは。

答 緑化フェアの会場のうち、南半分の約四割については、フェア終了後も地区公園として存続する。フェア後も多くの方に愛され、楽しく利用していただくためには、公園の管理運営をきめ細やかに行うことが重要で、地域の方々の協力は不可欠だ。今後、意欲ある市民の方々に積極的に参加していただける方策を検討し、地域の活性化や緑化の推進につなげたい。

鳥獣被害防止計画

20年度中に策定へ

問 市内における鳥獣被害の動向と被害防止計画の策定スケジュールは。

答 本市の鳥獣被害状況はイ

ノシシ、カラス、カワウによるものが多く、平成19年度は被害面積が約四百六十畝で、ほぼ横ばいで推移している。鳥獣被害防止計画の策定に当たっては、特に被害の大きいイノシシ等を対象とし、23



イノシシ被害から農作物を守る防護柵

年度の被害を20%軽減することを目標に、捕獲機材や防護柵の普及等を促進する。猟友会、農業生産者等の関係者の意見を聞きながら県との協議を経て20年度中に策定したい。

菜の花プロジェクトと

耕作放棄地対策

問 「菜の花プロジェクト」

と耕作放棄地対策の今後の展開は。

答 「菜の花プロジェクト」では、耕作放棄地の解消を目的に、郡地区及び曾根地区の遊休農地約七十四㌥に菜の花を栽培し、収穫、搾油したナタネ油は、公民館活動等で活用した後、バイオディーゼ

環境

家庭系ごみ有料化の必要性

問 家庭系ごみ収集有料化をする理由は。

答 有料化の目的は排出量に応じた受益者負担の公平性の確保とごみの減量化・資源化推進である。合併地区の不公平感の解消と地球温暖化の防止、持続可能な資源循環型社会の構築のためにも、ごみ処理手数料の早期統一が必要だ。

また、有料化を実施し、市民に経費を実感してもらおうことで、市民一人一人がごみに対する意識とごみ減量化への意欲を高め、自ら排出するごみに責任を持つ社会を目指し

燃料に精製し、農耕車に試験利用していく予定だ。今後の耕作放棄地対策としては、平成17年度以降実施してきた遊休・耕作放棄地の実態調査を踏まえ、その発生防止に努め、市として策定する耕作放棄地解消計画に基づき積極的な取り組みを図りたい。

たい。

廃食用油の

ステーション回収

問 廃食用油のステーション回収は全市的に行うのか。また、ステーション以外での回収は考えているのか。

答 資源化物のびん、缶を収集する日に合わせ、ステーションでの月一回の収集を全市一斉に実施する予定だ。

ステーション以外での回収については、資源回収推進団体による回収や、事業者の協力を得ながら、店舗拠点回収を実施したい。

**住宅用太陽光発電システム
21年度からの補助を検討**

問 住宅用太陽光発電システムの設置支援を行う考えは。

答 国は平成21年度からの支援の実施を検討中と聞いている。本市としても「晴れの国岡山」の地域特性を踏まえた地球温暖化対策の一つとして、太陽光発電システムの普及を一層図る必要がある。

このため、21年度から住宅用太陽光発電システムへの本市独自の補助事業を開始したい。助成規模は先行自治体の事例等を踏まえ、一般住宅規模である4キロワットを上限とし、1キロワットあたり三万円、二百五十基程度を予定している。



地球温暖化防止の一翼を担う